



—東地中海地域ニュース—

ヨルダン：アブドッラー国王のヨルダン国軍本部における演説及び国内の反応  
(8月5-6日付現地各紙)

8月4日、アブドッラー国王は、ヨルダン国軍総司令部における会議において、最近の国内でのパレスチナ系ヨルダン人及び国家アイデンティティに関する噂が流布している事に関して、概要以下のとおり述べた。なお、この会議にはファイサル王子、サライレ統合参謀本部議長、監察長官及び軍幹部が出席した。

【注】最近ヨルダン国内で、ヨルダン政府によるパレスチナ系ヨルダン人の国籍剥奪問題、7月19日のフットボール試合にて群衆が反パレスチナ発言をした問題、イスラエルが2国家解決の代替案として、ヨルダン代替国家案及び「ヨルダン川両岸における2国民のための2国家案」を検討している問題等に関して、「政府が国内パレスチナ系ヨルダン人を追放しようとしている、パレスチナ系ヨルダン人と東岸出身ヨルダン人の間に緊張が高まっている。」「パレスチナ人が独立国家を持つ権利が脅かされている」、等の憶測が飛び交っている。今回の国王の演説はこれらの噂を打ち消し、国家の一体性を保持するために行われたと考えられる。

1. アブドッラー国王演説概要

- (1) 国内における全ての関係者は、ヨルダン国家及び国家の安定を脅かすために、特別かつ疑惑的なアジェンダを持つ何者かにより流布されている噂に立ち向かう必要がある。今全ての人々に対して伝えたいことは、このような噂はもう十分であり、国内における政府、要人、議員及びジャーナリストといった全ての関係者はこのような「病」とかかるアジェンダを持つ者に対して責任を負うべきであり、また断固として対処すべき、という事である。
- (2) 自分（アブドッラー国王）は、これまでパレスチナ難民問題についての国内での議論をフォローしてきたが、これらの議論内容は遺憾なものである。ヨルダンはパレスチナ難民の帰還権及び補償権を継続して支持する。この立場は変わることがなく、これに関しては議論の余地はない。如何なる勢力もヨルダン及びヨルダン国民に対し、自国の国益に反する立場を取るよう強要することは出来ない。（アブドッラー国王はこの発言を2回繰り返した。）また、ヨルダンが米国と協力関係にあるからといって、ヨルダンが米国からパレスチナ難民問題に関して圧力を受けているという訳ではない。
- (3) ヨルダン、ヨルダンのアイデンティティ、国家の安定及び一体性が脅威にさらされて

いると議論する者は、ヨルダン、ヨルダン人及びヨルダンの歴史について無知な者である。

- (4) ヨルダンは、パレスチナの人々にとって最も親密な存在である。ヨルダンは今後も彼らの権利保護に努めていくと共に、早急なパレスチナ独立国家の樹立に向け可能な限り支援していく。
- (5) ヨルダン国家の一体性を損なう如何なる試みに対しても警告する。国家の一体性保持は超えてはならない一線であり、ヨルダンを脅かす者は国内外を問わず決して許されない。残念ながらヨルダンを害する事を試みている者の大半は、国内に存在している。これは恥ずべき事であり、許されるものではない。
- (6) これらの噂を流布している人々は、政治サロン及びその背後にいる人々である。例えば地方分権化事業を開始した当時、人々をこの事業から尻込みさせるような噂が流布したため、私自身（アブドゥラー国王）、今後破壊的な噂を二度と流布するべきではないと警告した事がある。今回も再び警告する。我々はヨルダンの将来を損なう者には容赦しない。
- (7) 幸運なのは、農村、砂漠地域及び難民キャンプはアンマンの政治サロンから始まった噂の輪の外にあることである。

2. 5日、アブドゥラー国王の演説に関し、国内の要人、政府関係者、知識層、ジャーナリスト及びスポーツ関係者は、この演説は国王がヨルダンとヨルダンの人々の為を考えている事をよく表しており、ヨルダン国家及び社会組織の一体性を保持することを目的としているとして同演説を歓迎した。